



ディベートや小論文指導における 新聞記事の活用

砂野 かつ子／原 弘江



＜抄録＞

ディベートの実施や小論文の指導等、実施や指導にあたって情報を必要とするものに対し、学校図書館はどのような情報を、どのように提供できるのか。特に有用と思われるツール、また案内の方法について、本校での取り組みを紹介する。

＜キーワード＞

ディベート、小論文、図書館、データベース、新聞

1 はじめに

岡山県立倉敷南高等学校には約1,000人が在籍している。校訓「自律・友愛・進取」の精神を実践し、国際化する社会に貢献・活躍できる人材の育成を教育目標に、単位制の柔軟なカリキュラムや充実したキャリア教育を整備している。

9月上旬に行われる葦岡祭（文化祭・体育大会）では、平成10年度より3年生によるクラス対抗のディベート選手権を開催している。「文化祭も三年生が参加できるイベントを」という生徒側からの働きかけにより始まったものであり、自発的かつ積極的に図書館が利用されるイベントの1つである。

小論文執筆やその指導にあたり必要となる情報、またその収集方法について、図書館では新入生オリエンテーションの実施や、時期に合った案内の配布等を行っている。

本稿では、ディベート選手権や小論文指導において、倉敷南高校の図書館ではどのような情報を、どのように提供しているのかを紹介する。

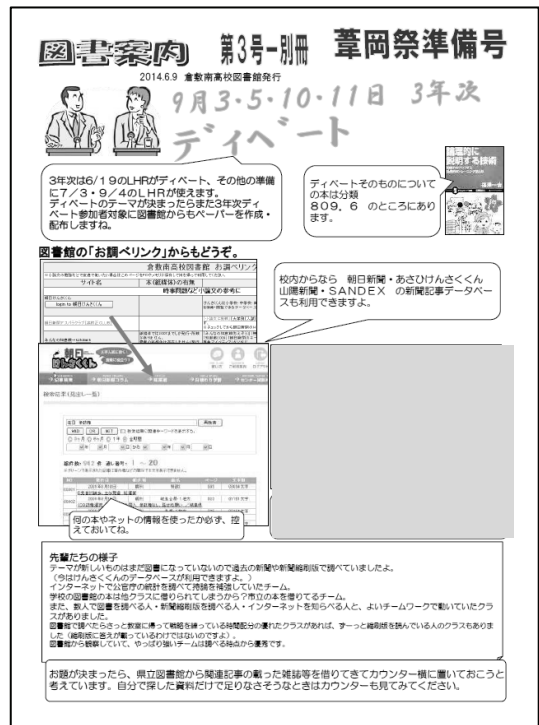
2 ディベート選手権

図書館では、葦岡祭のブロック集会が行われる前、6月の新刊案内で葦岡祭の特集を行う。その中でディベートの案内、あわせて情報収集に使える書籍やデータベースを紹介している（図1）。

本校では、朝日新聞社の「朝日けんさくくん」等のデータベースを利用している。

朝日新聞については、平成20年度までは朝日新聞縮刷版を購入・利用していたが、複数のクラス・生徒が利用

するため、1人が利用していると他の生徒が利用できない状況にあった。そこで翌平成21年度より「朝日けんさくくん」を契約。同時に複数の生徒が利用できるようになった。



＜図1：図書館案内 葦岡祭準備号＞

平成26年度は「教科書はすべてタブレット化すべきである」といった全国的な話題のほか、「倉敷市全域でゴミ袋を有料にすべきである」など地元をテーマにした出題をしている。

ディベートでは、書籍になっていない新しい話題をテーマにすることが多く、新聞記事データベースの活用機会が多い。

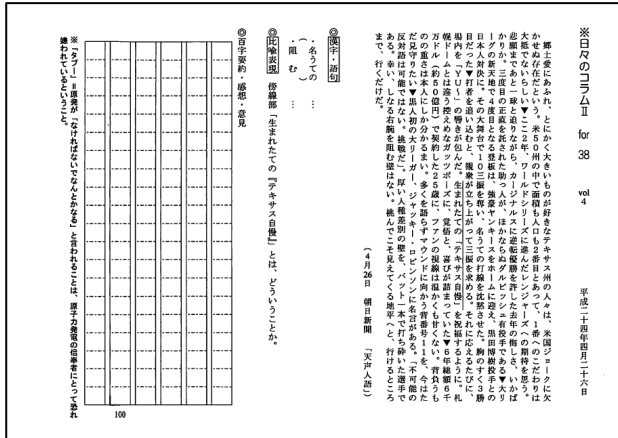
3 小論文指導

本校では、新聞記事等を活用して1年生から小論文指導に力を入れている。

1年から2年の間は、天声人語（朝日新聞）や滴一滴（山陽新聞）など、各新聞社のコラムを「日々のコラム」

(図2) といった形でほぼ毎日配布している。

小論文の参考書に必ずといっていいほど「新聞を読むこと」と書かれているように、入試問題に連載記事や社説が使われる機会は多く、小論文指導が本格化する3年の前から新聞記事に慣れ親しみ、読む習慣を身に付けることは重要であると考える。



＜図2：日々のコラムII for38 vol4＞

小論文の講義が開かれる3年生の夏の時期にあわせて、図書館から小論文対策に使える資料を案内している(図3)。

図書館では「朝日新聞」など数紙の当日の原紙を置いており、過去のもは2年分ほど書庫で保管している。

更に過去の新聞は、新聞記事データベースで調べるよう案内している。



＜図3：図書館で小論文対策！＞

生徒は図書館にあるパソコンや情報教室のパソコンから、教員は職員室の自身のパソコンから利用している。閲覧場所を選ばないことも利点である。

また、新聞記事データベースでは特定の連載記事だけ

を簡単に検索・閲覧でき、更にプリンターで印刷することもできるため、従来の紙の新聞で必要だった「紙面から記事を探す」「記事を切り抜く」といった手間を省くことができた。

4 校内への周知

これまで紹介してきた、ディベート選手権や小論文指導等利用機会が高まる場所以外でも、図書館で提供している情報について周知する機会を設けている。

教員に対しては年度初めに図書館利用案内を配布しており、所蔵している新聞、雑誌のタイトルや、新聞記事データベースで調べられる内容や期間を掲載している。

生徒に対しては、1年生の国語の時間を使って図書館利用に関するオリエンテーションを実施。新聞記事データベースは、プレゼンテーション用資料の中でアクセス方法を紹介している。

ディベート選手権では日頃から図書館を利用している生徒が活躍する傾向があり、小論文対策における1年からの新聞記事読解と同様に、早いうちから図書館を利用し、情報活用について理解を深めることが重要だといえる。



＜写真：平成26年度ディベート選手権決勝＞

5 おわりに

国際化する社会に貢献・活躍できる人材には、問題解決能力や論理的思考力、批判的思考力といった「21世紀型能力」が求められる。これら能力の育成において、言語表現や情報活用にかかわる指導・活動は一層不可欠なものとなるだろう。

これらの指導・活動をより発展させるために、学校図書館で得られる情報、またその得方を広く発信することは非常に効果的であり、これからの学校図書館に求められる役割となるのではないだろうか。